

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(農業公社支援)
小田 良和

Q 最近の仕事を教えてください。

A 農業公社のホームページ、X(旧Twitter)、Instagramの更新を少しずつ行っています。黒潮町で農業の研修をしたいと考えている人にきちんと届けられるように、引き続き広報活動を頑張っていきたいです。現在はあまり動画撮影ができていないため、こちらでも投稿できるように撮影していきたいと思っています。

また、6月に東京で行われた高知くらしフェアに来てくれた、黒潮町に移住して農業をしたいと考えているという方が、実際に町に訪れてくれたり、協力隊の応募を検討してくれるという嬉しい出来事もありました。今後も東京や大阪で農業のフェアに参加する機会があるので、興味を持ってもらえるように頑張ります。

Q 最近、変わったことはありましたか？

A 着任した当初と比べると、コロナウイルス感染症が落ち着いてきたということもあり、人と関わる機会が増え、行動範囲も広がりました。5月にはTシャツアート展の夜間警備のボランティアをしましたし、6月から始まったパークランのボランティアも行っていて、毎日とても充実しています。



Tシャツアート展夜間警備時撮影

Q 協力隊の任期も残り1年。任期終了後について、考えていることはありますか？

A 協力隊に着任する前は塾講師や家庭教師などをしていたこともあり、人に教える仕事をしたいと考えています。老若男女問わず面白いと思えることを、地元の皆さんと一緒にやっていきたいです。

協力隊から一言！

日々の業務をこなしつつ、任期終了に向けて生活の基盤を整えていきたいと思っています。

Kramer's Corner クレマのコーナー



今月のテーマ テキサスからのメッセージ

1991年に松本町長が四万十市の平野海岸でガラス瓶を見つけました。瓶の中を覗くと、アメリカ・テキサス州ポーモント市に住む11才の少年、ブライアン君からの手紙が入っていました。彼は海流を研究するためにタンカーで働いている近所の人に手伝ってもらい世界の海を渡りながら何年間もかけて1,000本以上のメッセージボトルを流しました。その中の1本が私たちの海岸まで流れ、松本町長の手元にたどり着きました。ブライアン君の手紙にはボトルを拾った人が彼に連絡するという依頼が書かれていました。町長がブライアン君宛に手紙を送ると、16才になったブライアン君から返事が来ました。

それ以来、彼との連絡が無く、砂浜美術館に展示されているブライアン君のボトルを見ると、彼が今何をしているだろうと砂美のメンバーが思い、アメリカに行き直接彼に会う素晴らしい企画を考えました。そこで、僕が英語に翻訳した手紙をブライアン君に送ってみたら、なんと返事が来ました！メッセージボトルが流れてきてから約30年の間、ブライアン君が40代のブライアンさんに成長し、テキサスからミズーリ州に引っ越しました。そして僕たちに会うことに同意してくれました。

ですから、今年の10月に僕と砂浜美術館の2人がアメリカに行き、ブライアンさんの生まれ育った町のポーモントに訪れ、そしてブライアンさんに直接インタビューをします。偶然見つかったガラス瓶からこのつながりが生まれてすごいですよね。海流の研究や今まで何をしていたか、いろいろブライアンさんに聞くのを楽しみにしています。戻ってきたらこのクレマのコーナーにも書くので、お楽しみに。



今月の使える！英語

How have you been? お元気でしたか。

久しぶりに会った人に対して言う英語。しばらく会っていない友だちや親戚に言ってみてください。

